

# 2023年度事業計画

## 1 研究交流・人材育成事業

「知の交流拠点」機能を発揮し、産・学・官の研究交流を通じて、ライフサイエンスの発展を担う創造性豊かな研究人材の育成を図る。

### (1) 千里ライフサイエンスセミナー

我が国を代表する第一線の研究者（各回6名程度）が先端的研究成果・動向等を発表・紹介し、研究交流と人材育成を図る。

対 象 者；大学・企業等の研究者等

回 数；年5回

場 所；千里ライフサイエンスセンタービル

なお、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、開催方式はリアル開催、Web開催、その両方（ハイブリッド）の中から適切な方式を選択する。

回	テーマ名	コーディネーター	実施時期
①	<b>セミナー V1</b> 相分離をもたらす医療・創薬の新展開	・吉村 成弘(京都大学) ・森 英一朗(奈良県立医科大学)	2023年 5月26日 (金)
②	<b>セミナー V2</b> 発達障害の病態解明	・川人 光男(ATR脳情報研究所) ・石田 綾(理化学研究所)	2023年 7月20日 (木)
③	<b>セミナー V3</b> 第9回がんシリーズ 理想的ながん免疫療法の展開 ーがん免疫プレシジョン医療ー	・西川 博嘉(国立がん研究センター) ・上野 英樹(京都大学)	2023年 9月12日 (火)
④	<b>セミナー V4</b> 組織再構築の制御と破綻 ～健康、未病、疾患～	・小川 佳宏(九州大学) ・菅波 孝祥(名古屋大学)	2023年 11月21日 (火)
⑤	<b>セミナー V5</b> オルガノイド研究の現状と展望 (仮題)	・佐藤 俊朗(慶應義塾大学) ・西田 幸二(大阪大学)	2024年 1月19日 (金)

## (2) 新適塾

各分野の第一線の研究者の講演と、若手が講師等と自由闊達に議論できる場を通じ、今後のライフサイエンスの発展を担う人材を育成する。

テーマ；「未来創薬への誘い」「脳はおもしろい」「難病への挑戦」

対象者；大学・企業等の若手研究者等

回数；各テーマ4回、年12回

場所；千里ライフサイエンスセンタービル

内容；講演及び懇親会

なお、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、開催方式はリアル開催、Web開催、その両方（ハイブリッド）の中から適切な方式を選択する。

また、懇親会は新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら開催の可否を判断する。

	テーマ名	コーディネーター	実施時期
①	未来創薬への誘い	水口 裕之（大阪大学大学院薬学研究科） 小比賀 聡（大阪大学大学院薬学研究科）	3カ月に1回実施 計年間4回
②	脳はおもしろい	山本 亘彦（大阪大学名誉教授） 古川 貴久（大阪大学蛋白質研究所）	同上
③	難病への挑戦	山下 俊英（大阪大学大学院医学系研究科） 菊池 章（大阪大学感染症総合教育研究拠点）	同上

## (3) AKIRA 塾

基礎から創薬した研究者や超一流研究者に、研究内容、研究を始めた経緯から苦労話、失敗談を含めた歴史を講演いただき、その後の理事長との対談や参加者とディスカッションを通じて、一つの成功プロセスモデルを提供することにより、今後を担う若手研究者の育成に資する。

対象者；大学生、大学院生、企業・研究機関若手研究者

形式；リアルとWebのハイブリッド開催

回数；年2回（7-8月頃、2月頃）

内容；講演、意見交換会

なお、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、開催方式はWeb開催のみ等の適切な方式を選択する。

また、意見交換会は新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら開催の可否を判断する。

## (4) 千里ライフサイエンス国際シンポジウム

世界的に著名な幾人かの専門家を招き、今回は体内時計と睡眠に関する講演会を筑波大学 IIIS（国際統合睡眠医科学研究機構）と共催し、産・学・官の研究者に本分野の進展を紹介する。なお、新型コロナウイルス感染症収束後にリアル開催することを目指している。

対象者；大学・企業等の研究者等

場所；千里ライフサイエンスセンタービル

テーマ名	コーディネーター	実施時期
Science of Behaving and Sleeping Brains	柳沢 正史(筑波大学 IIIS) 櫻井 武 (筑波大学 IIIS)	2024 年 3 月 1 日 (金)

#### (5) 大阪科学賞

創造的科学技术の振興を図り、21世紀の新たな発展と明日の人類社会に貢献するため、極めて有望な若手研究人材を「大阪科学賞」として顕彰する。(大阪科学賞は昭和58年創設。大阪府、大阪市、(一財)大阪科学技術センター主催。当財団は平成20年から共催)

## 2 岸本基金研究助成事業

独創性、先行性があり、ライフサイエンスの振興に寄与することが期待できる若手研究者の研究テーマに対して助成する。

- [助成研究テーマ]
- ・ 生命現象の解明
  - ・ 健康の維持増進と疾病の予防・治療
  - ・ 生物およびその諸機能の産業への応用

助成額；1件200万円

助成件数；15件程度

## 3 普及啓発事業

一般市民や児童生徒に、学び、研究者等と交流する機会を提供するとともに、主にライフサイエンスに関する知識・情報や、当財団の役割、各種事業等について普及啓発を行う。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、開催方式はリアル開催、Web開催、その両方(ハイブリッド)の中から適切な開催方式を選択する。

#### (1) 千里ライフサイエンスフォーラム

一般市民を対象に、幅広く「教養の向上」と「交流」を図ることを目的にライフサイエンスのみならず様々な分野のトピックスを取り上げ、学習と交流の場を提供する。

- ・ 毎月1回(8月は休会予定)、年11回
- ・ 場所；千里ライフサイエンスセンタービル
- ・ 形式；講演と講演のオンデマンド配信
- ・ 内容；講演及び懇親会

※講演のリアル開催と懇親会は新型コロナウイルスの感染状況を見ながら開催の可否を各々判断する。

#### (2) 市民公開講座

一般市民を対象に、ライフサイエンスに関する身近なテーマについて公開講座を開催する。

対象者：一般市民

回数：年2回

① 第87回 テーマ・・・調整中 [2023年10月14日(土)]

② 第88回 テーマ・・・調整中 [2024年3月23日(土)または30日(土)]

場所；千里ライフサイエンスセンタービル

※新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、開催方式はリアル開催、Web開催、その両方(ハイブリッド)の中から適切な方式を選択する。

### (3) 小学生、高校生向け事業

次世代の人材育成も含めて、生命・自然科学に対する知的好奇心、向上心を醸成するため、小学生向け事業、高校生向け事業を実施する。

財団企画委員会担当委員が事業を企画し、コーディネーターとなって実施する。

【小学生向け事業】(学校の授業では取り組みにくい実験等を行う。)

- ・講師；2課題/2講師を予定
- ・場所；大阪大学豊中キャンパス 理学研究科研究棟
- ・夏休み期間中1回開催予定

【高校生向け事業】

① 第15回高校生セミナー：研究者と語ろう(大阪大学 IFRc と共催)

- ・開催日；2023年8月初旬の平日
- ・場所；大阪大学吹田キャンパス IFRc 研究棟
- ・講師；2～3演題/2～3講師を予定。IFRc 研究室見学も予定。

※新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、開催方式はリアル開催、Web開催、その両方(ハイブリッド)の中から適切な方式を選択する。

② 高校へのライフサイエンスの出前授業

- ・対象校；高槻中学校・高等学校、金蘭千里高等学校、千里高校
- ・回数；計3～5回

※新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、開催方式は開催高校の意向に沿ってリアル開催、Web開催から選択する。

### (4) 広報誌「千里ライフサイエンス振興財団ニュース」の発行

ライフサイエンスに関する知識・情報、当財団の事業・活動報告、案内等の普及を図る。

[内容] ・理事長と第一線研究者の対談

- ・「リレートーク」
- ・「解体新書」
- ・財団事業の報告・取材記事
- ・財団事業案内等 情報提供

発行回数；年3回

部 数 ; 各 1,300 部

配 布 先 ; 大学・研究機関、ライフサイエンス関連企業、行政、セミナー・  
フォーラム等財団主催行事参加者等

## 4 研究実用化支援事業

産・学・官の交流拠点・結節機関として、ライフサイエンス分野における研究とその実用化・事業化を促進・支援する。

### (1) 技術講習会

ライフサイエンス分野の最新の実験技術、機器・装置等を研究者の講演と実習を通じて紹介し、若手研究者等に新しい技術習得の機会を提供する。

対 象 者 ; 大学・企業等の研究者等

回 数 ; 講義および実習を各 1 回

場 所 ; 講義 (オンライン) および実習 (大阪大学微生物研究所谷口記念講堂)

テーマ名	コーディネーター	実施時期
技術講習会 G72 シングルセル解析 (仮題)	奥崎 大介 (大阪大学 IReC)	調整中

### (2) 千里 LF 産学学術交流会

アカデミア (岸本基金研究助成採択者および日本免疫学会「きぼう」プロジェクト採択者) からの単なるシーズ紹介の場ではなく、少し先の未来を見据えて製薬企業とアカデミアが率直かつ自由に議論、交流できる場を提供する。

対象者 : 企業の研究者および研究経験者

形 式 : オンサイト開催

時 期 : 2023 年 11 月~12 月

内 訳 : 講演と懇親会

### (3) 日本医療研究開発機構「橋渡し研究プログラム」(大阪大学受託事業)

当該プログラムのシーズ A (基礎研究課題) および異分野融合型シーズ H (医歯薬系以外の研究者による研究課題) に係る業務を担当し、特に革新的医療技術創出拠点としての大阪大学の課題となっている大阪大学以外 (拠点外) のシーズ育成強化を実現する。

具体的には、

- ① 研究進捗状況や今後の計画をヒアリングして必要な助言を行うフォローアップ業務
- ② 企業への繋ぎ活動
- ③ 大阪大学への結果報告と対応協議
- ④ 新規支援シーズの選考業務

等を行う。

(4) 大阪府との連携による産学官交流事業

① 産学官イノベーションステージ

イノベーション創出や研究成果の社会実装をめざし、優れたシーズを有するアカデミアと研究開発に取り組む大阪府内ライフサイエンス関連企業等の連携を促進するイベントの開催に協力する。

② 彩都産学官連携フォーラム

産学官の連携をより強固にするとともに医薬品産業の活性化に寄与することをめざし、医薬基盤・健康・栄養研究所などにおける研究成果や大阪北部（彩都）地域を中心とした産学官連携の取組みを対外的に広く発表するイベントを開催する。